

H5タンクエリアおよび G6北タンクエリアの堰からの漏えいについて

平成25年12月26日
東京電力株式会社

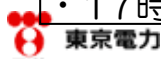
1. H5タンクエリア堰からの漏えい（12月21日・22日発生）の概要

●12月21日

- ・16時15分頃 協力企業パトロール員から「H5タンクエリアの堰からの水漏れがある」と連絡を受けた当社社員が、**H5タンクエリア西側の堰**の底部から、水が**漏えい**していることを確認。
- ・18時頃 漏えい箇所（堰外側）に、土のうおよびビニルシートで水受けを設置。
- ・19時12分 水受け内に仮設ポンプを設置、水受けから堰内への移送を開始。
- ・23時35分 H5タンクエリア堰内水をH6タンクエリア堰内へ移送開始。

●12月22日

- ・2時40分 H5タンクエリア堰内水のH6タンクエリア堰内への移送停止。
- ・8時～10時 漏えい箇所の基礎コンクリート打継目の**シール補修**を実施。
→H5タンクエリア西側の堰からの漏えいは減少。（停止に至らず）
- ・16時13分頃 協力企業パトロール員が、新たに**H5タンクエリア北東側の堰**の継ぎ目部から水が**漏えい**していることを確認。
その後、漏えい箇所（堰外側）に、土のうおよびビニルシートで水受けを設置。さらに水受け内に仮設ポンプを設置。
- ・17時40分頃 水受けから堰内への移送を開始。

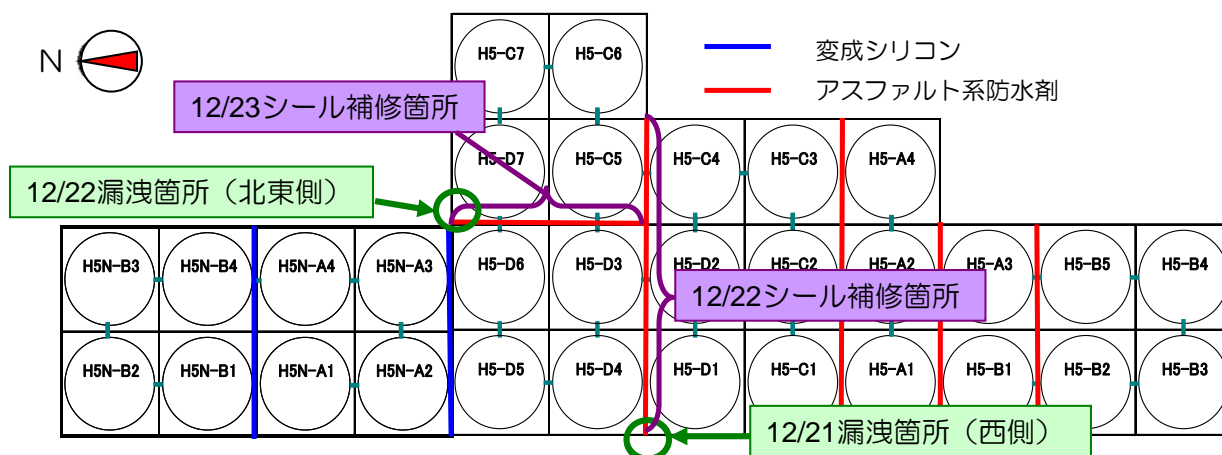


1

●12月23日

- ・8時15分～10時 漏えい箇所の基礎コンクリート打継目の**シール補修**を実施。
＝＝その後、漏えい状況を経過観測＝＝
- ・15時20分 **H5タンクエリア西側の堰および北東側の堰からの漏えいが停止**したことを確認。

2. H5タンクエリア堰からの漏えい箇所等



※ 基礎コンクリートは、上図の青線もしくは赤線の打継目で分割されている（8分割）。



2

3. H5タンクエリア堰からの漏えい推定原因

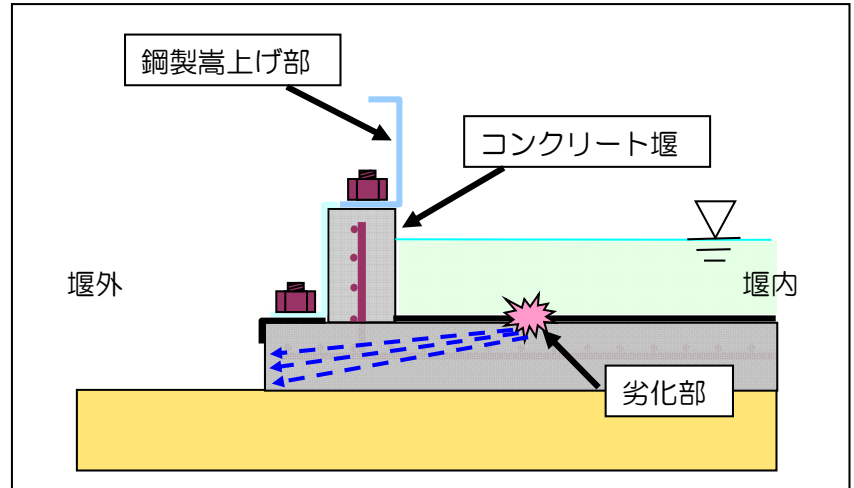
- コンクリート打継ぎ部に施している**止水シールが劣化**したことが考えられる。
→ 堰内に水が溜まり、親水条件（水と馴染みやすい条件）になったためにシールの劣化が促進された可能性あり。



- **劣化部から堰内雨水が打継ぎ部に浸透**して、打継ぎ部をつたわって、基礎堰外に漏えいしたものと推定。

【H5タンクエリア西側の堰】

【タンク堰の断面図】



4. H5タンクエリアの対応結果

【H5タンクエリア堰内のシール補修状況】



【H5タンクエリア西側堰のシール補修状況】

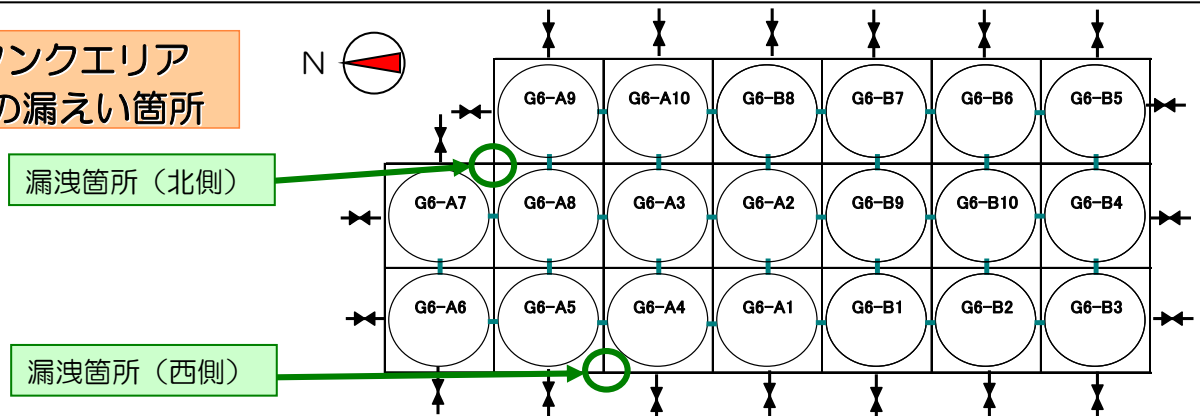


5. G6北タンクエリア堰からの漏えい（12月22日発生）の概要

●12月22日

- ・16時33分頃 協力企業パトロール員が、**G6北タンクエリア北側の堰**の下部から**漏えい**があることを確認。
- ・18時40分頃 協力企業パトロール員が、新たに**G6北タンクエリア西側の堰**に発生したヒビから**漏えい**があることを確認。
- ・19時20分 G6北タンクエリア堰内水をG6南タンクエリア堰内へ移送開始。
- ・21時15分 漏えい確認後に実施していた、以下の対応が完了。
 - ✓G6北タンクエリア北側堰の漏えい箇所（堰外側）に、土のうおよびビニルシートで水受けを設置。
 - ✓G6北タンクエリア西側堰の漏えいしていたヒビに、コーキング材による補修を実施。（**西側堰の漏えいは停止。**）

6. G6北タンクエリア 堰からの漏えい箇所



7. G6北タンクエリア 堰からの漏えい推定原因

- コンクリートに入っていたクラックが気温低下により目開きして、堰内の水が漏えいしたものと推定。
→一般にコンクリートクラックは気温が下がると目が開く傾向にある。
- 基礎表面クラックに止水シールを施工予定。

【G6北タンクエリア北側堰のヒビ】



平成25年12月22日撮影 東京電力株式会社

【保護舗装実施後のH2南タンクエリア】



平成25年11月撮影 東京電力株式会社

8. 全体対策

- コンクリート基礎全てを対象にして、現在、保護塗装を実施中。

福島第一原子力発電所 H4タンクエリアおよび H4東タンクエリア堰内の水位の低下について

1. H4タンクエリアおよびH4東タンクエリア堰内の水位の低下の概要

【12月24日】

○H4タンクエリアおよびH4東タンクエリアの堰内水位データ確認において、当該タンクエリアの水位が徐々に低下していることを確認。

＜H4タンクエリア＞

●堰内水位

・12月20日：約12cm、12月24日昼頃：約5cm

漏えい量（推定）：約116m³

●堰内水サンプリング結果（12月20日採取、ストロンチウム90は簡易法による測定）

セシウム134：検出限界値未満（検出限界値：10Bq/L）

セシウム137：検出限界値未満（検出限界値：15Bq/L）

ストロンチウム90：20Bq/L

＜H4東タンクエリア＞

●堰内水位

・12月20日：約12cm、12月24日昼頃：約1cm

漏えい量（推定）：約109m³

●堰内水サンプリング結果（12月20日採取、ストロンチウム90は簡易法による測定）

セシウム134：検出限界値未満（検出限界値：12Bq/L）

セシウム137：検出限界値未満（検出限界値：17Bq/L）

ストロンチウム90：440Bq/L

※堰内の水をくみ上げるとともに、堰基礎部の目地へのエポキシ樹脂等による止水処理を実施することで対応

2. H4タンクエリアにおける堰内の水の堰外への漏えいについて

【12月25日】

○12/25 12:00頃、堰内水位低下の対応として堰基礎部の補修作業（コーキング剤取替）を実施していたH4タンクエリアにおいて、南側堰外へ僅かな漏えいがあることをパトロール中の当社社員が発見。

○その後、補修作業（コーキング剤取替）の完了により、漏えいは停止。

＜当該エリアの線量測定結果＞※漏えい箇所において、高線量値は確認されず。

・雰囲気線量

70μm線量当量率（ガンマ線＋ベータ線）0.02mSv/h

・当該部線量（漏えい箇所）

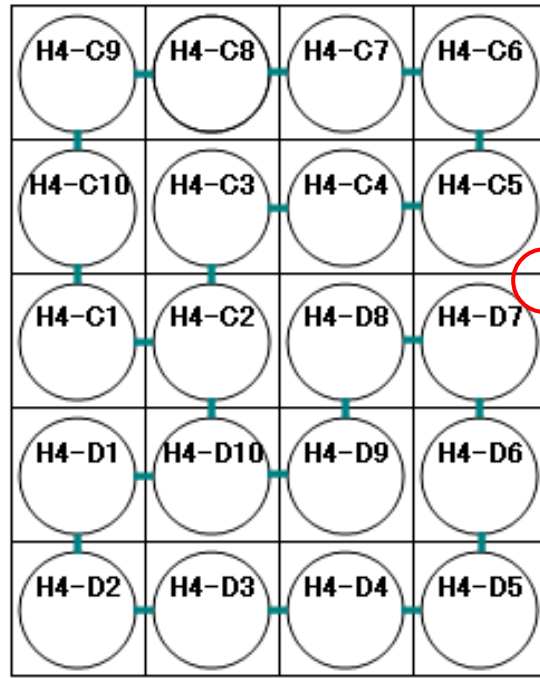
（5cm距離※） 70μm線量当量率（ガンマ線＋ベータ線）0.03mSv/h

・堰内表面線量

（5cm距離※） 70μm線量当量率（ガンマ線＋ベータ線）0.04mSv/h

※測定箇所から5cm離れた位置

3. H4タンクエリアにおける堰内の水の堰外への漏えい箇所



漏えい箇所

H4タンクエリアタンク数：20基

(参考) タンクエリア配置図

